

「公共建築の日」及び「公共建築月間」中部地区イベントを開催！

「木の文化と技術の継承」

～木の新たな可能性～

営繕部 計画課

「公共建築の日」及び「公共建築月間」は、広く国民共有の財産である公共建築に対する理解、関心を高めていただく目的で平成15年に定められ、関連イベントの開催は今年で11回目になります。

今年度は、3月に「官庁施設における木造耐火建築物の整備指針」が策定され、6月には「木材利用の導入ガイドライン」が取りまとめられたことを受け、更なる木材利用を推進すべく、「木の文化と技術の継承」～木の新たな可能性～と題して、講演会及びパネル展を開催しました。

～ 公共建築講演会 ～

■ 講演会の概要

平成25年11月8日(金)に愛鉄連厚生年金基金会館において、「木の文化と技術の継承」～木の新たな可能性～と題して講演会を開催し、129名が参加されました。

第13回公共建築賞を受賞した「三重県立熊野古道センター」をはじめ多くの木造建築の設計を手がけている広谷純弘氏に、構造実験や新たな継ぎ手の開発などにより木の新たな可能性を探る取り組みをご紹介頂きました。

また、平成29年の完成を目指して進められている「名古屋城本丸御殿」の復元に携わっているお二方に、その概要と技術伝承の取り組みをご紹介頂きました。



挨拶する 吉田営繕部長

■ 講演会の要旨

1. 「森とつながる建築・風景をつくる建築」

(株)アーキヴィジョン広谷スタジオ 代表取締役 広谷 純弘 氏
熊野古道センターでは、周囲の風景と共に新しい「日本の風景」をつくる建築をめざして、地場産尾鷲ヒノキの流通材サイズの無垢材で、歴史的木造建築を凌ぐような空間を構成しています。

また、「木と出会えるまちづくり」をテーマに施設整備を行った、富山市大山エリアの3施設の取り組みをご紹介頂きました。



講演する広谷氏



三重県立熊野古道センター



熊野古道センター内観



富山市大庄地区コミュニティーセンター

2. 「名古屋城本丸御殿復元の概要と技術の伝承」

1) 安藤ハザマ・松井・八神特別共同企業体

名古屋城本丸御殿作業所 所長 吉原 一彦 氏

吉原氏からは、本丸御殿における復元の方針や手法・時代背景のほか、伝統構法と現在の構法の違いをご紹介頂きました。

当時の古写真や実測図が遺されていたため、歴史的な意義を踏まえた実証的な復元が可能となっていることが紹介されました。



講演する吉原氏

～ 公共建築講演会 ～

2) 株式会社 魚津社寺工務店 会長 魚津 源二 氏

本丸御殿の復元では、職人の経験と勘によって造られてきたものが、実測により図面として遺されていたため、先入観を持たずに、これを忠実に復元することに取り組んでいます。

職人を指揮して復元作業にあっている魚津氏からは、木の癖や曲がりを読む手作業こそが職人の技であり、これを受け継ぐことの意義と難しさが語られました。



講演する魚津氏



名古屋城本丸御殿

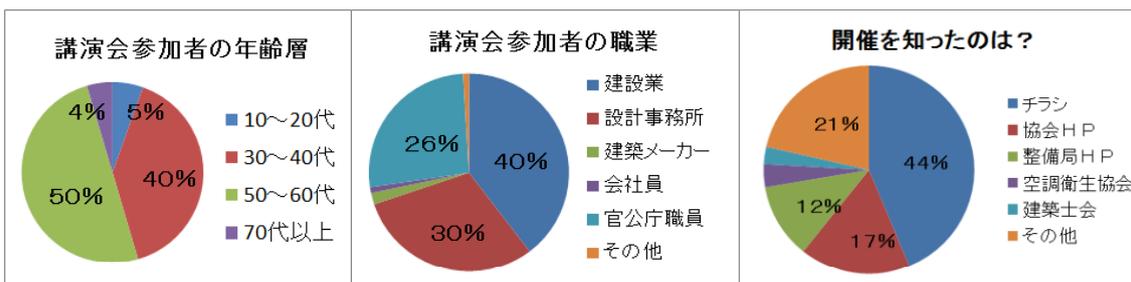


玄関棟の屋根工事

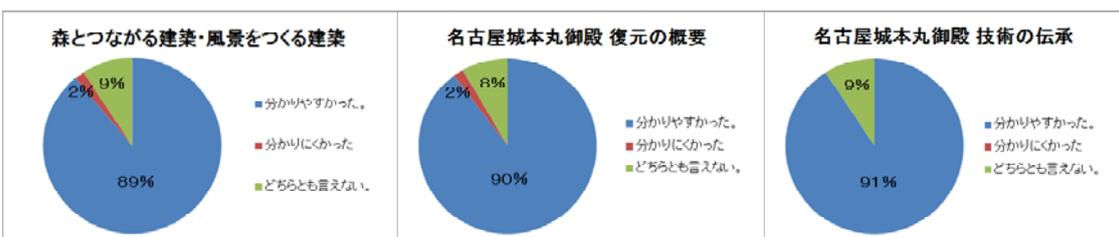
■ 講演会のアンケート結果

講演会の成果の確認と今後の公共建築月間イベント開催の参考とするため、講演会の参加者を対象にアンケートを実施しました。結果は、以下の通りです。

1. 講演会参加者について



2. 講演内容について



3. 各講演に関する個別意見・感想

1) 「森とつながる建築・風景をつくる建築」

- ・木造設計の楽しさ、地域との協調性が重要であることを感じた。
- ・建築技術が林業＋地域を活性化できることがすばらしい。環境サイクルも守りながら風景をつくるという考え方がすばらしい。
- ・ビジュアルな画面で分かりやすかった。景観と調和された建築物に感動しました。
- ・質疑応答の林業の話が非常に勉強になった。構造的なところをもう少し聞きたかった。

2) 「名古屋城本丸御殿復元の概要と技術の伝承」

- ・復元に対する基本的な考え方(実証主義)と伝承の心構えを学べて良かった。
- ・技術の伝承は建築業界に言えることだが、その考え方の基本を学ぶことができた。
- ・新築と復元の違いとその難しさは気がつかないだったので、新鮮であった。
- ・人と技術、人と人をつないで技術を伝えていくことについて、少し分かったような気がする。
- ・本丸御殿の復元は技術の伝承のためではなく、古い技術の確認であることが分かった。

～ 公共建築パネル展 ～

公共建築パネル展では、今年の3月に策定された「官庁施設における木造耐火建築物の整備指針」や6月に策定された「木材利用の導入ガイドライン」の概要と国や地方公共団体の最新の木材活用事例を、下記の日程・場所で巡回展示して紹介しました。

日程・展示場所

- ① 平成25年10月21日(月)～10月30日(水) 静岡県庁別館 21階展望ロビー
- ② 平成25年11月 5日(火)～11月13日(水) 名古屋合同庁舎第2号館 1階ロビー
- ③ 平成25年11月18日(月)～11月27日(水) 岐阜県庁 2階展示ホール
- ④ 平成25年12月 2日(月)～12月11日(水) アスト津 3階みえ県民交流センター
- ⑤ 平成25年12月16日(月)～12月25日(水) 愛知県庁本庁舎・西庁舎地下連絡通路

平成25年度
公共建築パネル展

「木の文化と技術の継承」 ～木の新たな可能性～

木材活用の最新の動向

- 丸美産業(株)本社社屋 (名古屋市、木質ハイリット構造)
- プロミュージアム・リサーチセンター (愛知県春日井市)
- 木材会館 (東京都、木質外装)
- 東北大学エコーラボ (木質外装)
- 美弥・来福台県営住宅 (山梨県美弥市、耐火建築物)
- 富代町庁舎 (埼玉県、準耐火建築物)



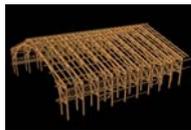
名古屋合同庁舎第2号館での展示状況

公共建築物における木材利用の導入ガイドライン

2章 合理的な建築計画

1 合理的な工法・材料

合理的な工法・材料を選択して、コスト縮減を図った事例を紹介しています。



伝統工法で製材によるアーチを構成

中津市
鶴居小学校

3章 建築構造の設計

1 立面混構造

建物用途・規模等により、下階を非木造、上階を木造とした立面混構造を紹介しています。



5・6階木造
4階以下は鉄骨造
埼玉県・春日部市
ふれあいキューブ

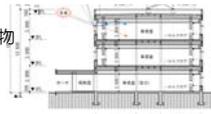
4章 建築部位の設計

1 耐火・準耐火建築物

木造耐火建築物は難易度が高く、各種耐火部材・工法が開発されつつある状況です。

木造耐火建築物のモデル設計

国土交通省



国・地方公共団体の木材活用事例

横浜植物防疫所つくば園場 (事務・検査棟)



所在地 : 茨城県つくば市長峰
延べ面積 : 689㎡
構造・階数 : 木造2階建
主な使用樹材 : 柱・梁一唐松集成材
施設の特徴 : 外装材一赤松加熱処理剤
・元々敷地に植えられていたアカマツを伐採し、外壁に再利用している。
・交流ロビーや常設展示室などは、構造材の組壁あらわしとしている。

三重県立熊野古道センター



所在地 : 三重県尾鷲市向井
延べ面積 : 2,436㎡
構造・階数 : 木造平屋建
使用樹材 : 柱・梁一尾鷲ひのき組柱、組梁
外装材一尾鷲ひのき組壁あらわし
・集成材ではなく、構造材のすべてを地元産「尾鷲ひのき」135mm角芯持ち無垢材のみで組み上げた構造としている。

静岡県草薙総合運動場 体育館



所在地 : 静岡県静岡市駿河区聖一色
延べ面積 : 13,509㎡
構造・階数 : RC造地上2階、地下1階
混構造(鉄骨造+木造)
建築年 : 2015年春完成予定
・県産の杉集成材と鉄骨からなるハイブリット構造を採用
・天井、壁ルーバーに県産杉材、床にハードメイプルを使用